

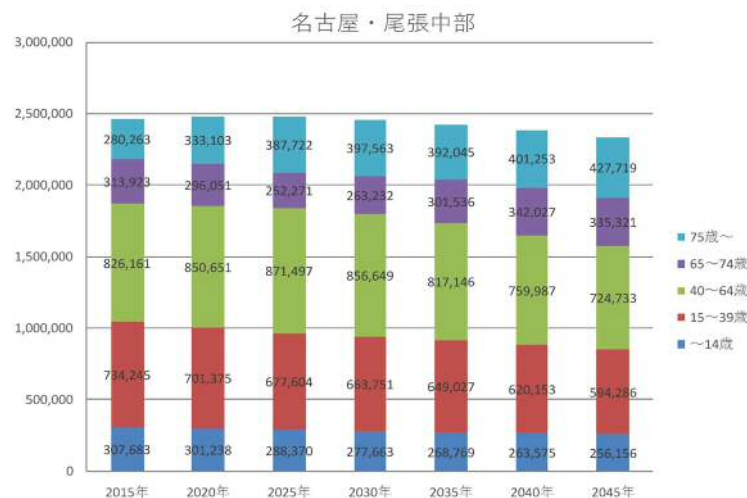
公立・公的病院の役割の再検証について（東名古屋病院 説明資料）

1 取り巻く環境を踏まえた自院の役割の整理

(1) 現在の地域の急性期機能

4 機能	2018 年度 病床機能報告	2025 年の 病床数必要量
高度急性期	6,009	2,885
急性期	7,926	8,067
回復期	2,928	7,509
慢性期	4,448	3,578
合計	21,311	22,039

(2) 地域の人口推移



(3) 自院の役割

当院の一番の社会的使命は、神経難病・重心・結核患者等のセーフティネット系政策医療を実践することであり、当該疾患の救急対応が行えることも重要な使命である。

2 自院の今後の方針等

(1) 分析対象領域ごとの医療機能の方向性

分析対象領域：当院は、がん、心疾患、脳卒中、小児、周産期について、急性期医療として拡充する計画はない。へき地、研修・派遣機能は該当しない。

分析対象領域：救急、災害について、平成 30 年度の当院緊急入院患者 533 名中、神経難病・重心・結核等の疾患を基礎疾患として有している患者は約 6 割を占めていた（別紙 1）。これら基礎疾患を有する患者は初診として救急病院を受診した場合、患者状態を把握するだけでも時間がかかり迅速・適切な診療は困難である。このような患者に対し当院で対応可能な救急診療を行っていくことは他施設の負担を軽減する意味でも必要である。また当院は名東区唯一の病院群輪番制病院で名古屋市災害医療活動拠点にも指定されており、これらの使命を果たすためにも急性期病床は必要である。

急性期病棟は急性期一般入院基本料（以下「基本料」）4 を算定しているが、基本料 1 に必要な平均在院日数や看護必要度をクリアする診療実績である。（別紙 2）

また、当院の急性期機能は、神経難病、重症心身障害児者、結核等の患者の急性増悪時における急性期医療を適宜・適切なタイミングで提供することが可能となっており、当院の使命であるセーフティネット系医療を確実に実施していくためにも急性期医療と一体的に運営していく必要がある。国立病院機構は法人として、急性期とセーフティネット系医療の一体の全国ネットワークを活かし、医師の不足している病院への診療援助や資金面での融通などの仕組みを有しており、これによりセーフティネット系医療をはじめとした地域の患者が必要とする医療を安定的に提供することが可能となっており、当院もその取組の一端を担っている。

その他、急性期以外の医療機能（慢性期・回復期）を支える一般医療が充実していることも当院の特徴であり、合併症を数多く抱える慢性期・回復期の患者の診療も可能となっている。

(2) 4 機能別の病床の変動

4 機能	2017 年度 病床機能報告 (厚労省の分析時点)	2025 年の 病床数の予定
高度急性期	0	0
急性期	93	42
回復期	60	92
慢性期	202	155
休棟	53	41
合計	408	330

2018 年度に地域医療構想に沿ったダウンサイジングを行い、既に 330 床となっており、急性期病床 1 単位は継続していく（別紙 3）。

緊急入院一覽表

東名古屋病院

病棟	主な診療科	病床機能	平成30年度 緊急入院患者数の実績（月毎の頭数）													計	緊急入院 受入割合
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
西5	呼吸器、整形、外科、血内、泌尿器、脳外、神内	急性期機能	39	32	34	38	20	35	30	36	32	28	21	25	370	69.4%	
西4	神内、呼吸器、整形、外科、泌尿器、循環器、脳外	回復期機能	3	4	6	3	3	4	0	3	4	7	3	2	42	7.9%	
西3	神内、呼吸器	慢性期機能	5	1	2	4	6	5	3	2	4	9	0	2	43	8.1%	
南2	神内、脳外、整形	回復期機能	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4	0.8%	
南1	神内、脳外、呼吸器	慢性期機能	2	3	7	5	8	6	6	5	5	12	1	3	63	11.8%	
北1	小児科（重心）	慢性期機能	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.2%	
西6	結核	結核病床	1	1	1	1	2	1	0	1	2	0	0	0	10	1.9%	
計			50	41	50	52	40	53	39	47	48	56	25	32	533	100.0%	

平成30年度年間

○西5 緊急入院患者 370人 西5の年間新入院患者数は806人 ※緊急入院率45.9%
 370人の内、基礎疾患（神経難病・難治性呼吸器疾患・陳旧性結核等）216人 基礎疾患が占める割合は58.4%
 370人の内、病診・病病連携紹介患者数 144人 連携紹介患者が占める割合は38.9%
 370人の内、救急車搬送（連携紹介患者を含む） 104人 救急車搬送が占める割合は28.1% } 67.0%

○西3、西4及び南1 緊急入院患者 148人 ※本来は西5で受け入れるところ満床等の理由で他病棟に入院した患者数
 148人の内、基礎疾患（神経難病・難治性呼吸器疾患・陳旧性結核等）85人 基礎疾患が占める割合は57.4%
 148人の内、病診・病病連携紹介患者数 64人 連携紹介患者が占める割合は43.2%
 148人の内、救急車搬送（連携紹介患者を含む） 30人 救急車搬送が占める割合は20.3% } 63.5%

○急性期病床（西5病棟）平成30年度の実績

- ・許可病床 42床
- ・一日平均在院患者数 37.3人（病床利用率88.8%）
- ・一日平均取扱患者数 39.6人（病床稼働率94.3%）
- ・平均在院日数 16.1日（急性期一般入院料1の施設基準18日未満）
- ・届出入院基本料 急性期一般入院料4

※「重症度、医療・看護必要度I」の患者割合は平成30年度平均36.1%であり、急性期一般入院料1届出の要件30%を大きく上回っている

※平成30年4月地域包括ケア病棟入院料届出につき、告示により急性期一般入院料1の届出はできないこととされている。

○医療法病床数の推移

平成30年4月、急性期病棟1単位(47床)閉鎖、障害者施設等病棟(慢性期44床)を地域包括ケア病棟(回復期32床)に転用、非稼働病床の返納とあわせて一般病床を408床から330床に78床削減し、現在に至っている。

区分		H26.4.1	病床機能	H26.11.1	病床機能	H30.4.1	病床数増減	主な診療科	病床機能	施設基準
一 般	東4病棟	47	急性期病棟	47	急性期病棟	0	△ 47	閉鎖	—	—
	西3病棟	48	慢性期機能	48	慢性期機能	45	△ 3	脳神内、呼吸器	慢性期機能	障害者施設7:1
	西4病棟	46	急性期機能	44	慢性期機能	32	△ 12	脳神内、呼吸器、整形、外科 泌尿器、循環器、脳外	回復期機能	地域包括ケア2
	西5病棟	46	急性期機能	46	急性期機能	42	△ 4	呼吸器、整形、外科、血内 泌尿器、脳外、脳神内	急性期機能	急性期一般4
	北1病棟	50	慢性期機能	50	慢性期機能	50	0	小児科(重心)	慢性期機能	障害者施設7:1
	南1病棟	60	慢性期機能	60	慢性期機能	60	0	脳神内、脳外、呼吸器	慢性期機能	障害者施設7:1
	南2病棟	60	回復期機能	60	回復期機能	60	0	脳神内、脳外、整形	回復期機能	回復期リハ1
	西7病棟	53	休棟中	53	休棟中	41	△ 12	—	休棟中	—
	小計	410	—	408	—	330	△ 78	—	—	—
結 核	西6病棟	111	結核病床	60	結核病床	40	△ 20	結核	結核病床	結核10:1
	小計	111	—	60	—	40	△ 20	—	—	—
合計		521	—	468	—	370	△ 98	—	—	—

※結核はH27.4.1に60床へ変更